NPO法人 大雪山自然学校
Daisetsuzan Nature School

２０２４年度

事業報告書

①環境保全活動

• 自然保護対策業務

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業として、5/15～10/31に旭岳自然保全員6名が活動。旭岳姿見の池園地における登山道整備や清掃活動、利用マナーの普及活動を実施

⇒散策路整備は、階段やのり面の補修と経過確認を20か所実施
⇒協力金は、4,383,691円（2023年は2,802,169円）
⇒レンタル長靴は2,901足（870,300円）の貸出し
⇒携帯トイレは612個（306,000円）販売
　携帯トイレ自販機を導入し早朝利用にも対応した（3年目）
　携帯トイレの購入時間は9時までが540個、対面が72個。
⇒山のトイレマナーと携帯トイレ使用の普及に努め、
　「山のトイレマップ」を約2,000部配布

・東川町青少年野営場管理業務

東川町の委託事業として、6/10～9/30に、野営場の受付や清掃などの管理業務を行い、1366名（国内1135名・海外230名）が利用した（2023年度は1349名）。
月別利用者数は、6月80名、7月422名、8月429名、9月435名であった。

【成果】
・清掃面、情報発信の面において利用者に対するサービスが高まった。
・「テント張りっぱなしプラン」を設定した。
・ヒグマパトロールを行い、事故の防止を心がけた。
・オフィスアワーを設けた。それによりスタッフの時間外対応が減った。
・野営場のサービス向上と運営の効率化・コストダウンの方法が見えてきた。

・外来種防除活動

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業「自然保護対策事業」の一環で、旭岳におけるセイヨウタンポポとアキタブキの防除を実施。2024年度で継続5年目である。

セイヨウオオマルハナバチバスターズ(事務局：北海道上川総合振興局)や、大雪と石狩の自然を守る会と連携した。

【成果】
・旭岳でのセイヨウタンポポとアキタブキの防除活動
→継続することで、根にたまっている栄養が使い尽くされるので個体が細くなっていることが確認できた。継続した防除の重要性がわかった。
→弊団体単体ではなく、他団体と共同することで、人数も集まり、社会的な広がりも見えた。
→主催するだけではなく、他の団体の活動や市民活動に積極的に参加することで、ネットワークが広がった。

・野生動物との共存推進事業

エキノコックス防疫対策のため、町内に生息するキツネの感染率調査（捕獲キツネの腸管検査）と駆虫薬入餌の散布により、キツネの感染率を低減させる活動を町の保健福祉課からの委託で実施した。人と野生動物とが安心・安全に共存できる環境づくりを推進することが目的である。

キツネが人と接触しやすくなる時期(田植えの時期）から3回にわたって、エキノコックスの虫下し入りの餌（ベイト）を作成し、東川町内全域(全ての舗装道路に100m毎)に撒いた。

散布総距離：70km
散布総数：1,400個

・チシマザサ刈取調査

チシマザサの分布拡大による既存の植物種の衰退に対して効果があるとされるササ刈りを姿見で進めるための調査を2022年より実施している。毎年調査区内のササの刈り取りと、植生のモニタリングを実施している。

今年で3年目となるが、未だササの再生が目立つ。ササの密集度がより低い調査区で植生の回復もみられている。

【成果】
- 年々再生するチシマザサの量が減少してきている。
- ショウジョウバカマやミヤマアキノキリンソウなどの植物が目立ち始めた。
- 3年目以降効果が顕著に出るというデータもあるので、来年度の変化にも期待がもてる。
- 散策路から見える位置に調査区を設定したため、公園利用者にもこの問題や調査内容を知ってもらうきっかけ作りができた。

・森つく（月に一度は森づくり）

ほっく一基金の助成を受け、市民参加型の森づくり活動を年間を通じて毎月実施した。主な作業は倒木処理・歩道整備に加え、野鳥・植生の調査・観察、巣箱掛け、イタヤカエデの樹液採取とメープルシロップの収穫、ヨモギ採取とヨモギまんじゅう作りなど多岐にわたる。

参加者が森を楽しみながら行うこれらの活動そのものが森林の健全化と地域資源の再発見に直結する仕組みである。定例10回に加えて臨時活動1回を実施し、延べ参加者は174名に達した。

また、活動を通じてその時期に見られる動植物を記録し、磯清志氏の助言を得て「キトウシの図鑑」を作成した。結果として、持続可能な森林管理の基盤を強化するとともに、市民の環境意識と地域への愛着を高めた。

②子供自然体験

・イエティくらぶ
日帰りイエティトレッキングクラブ

7プログラムを実施し、45人の親子が参加。

大雪山国立公園をフィールドに、その時期ならではの自然や文化を体験するプログラムを実施した。「今、ここ、私たち」をテーマに、この地域に暮らす人々の原体験となるような活動を展開している。

また、こうした体験が将来にわたって可能であり続けるよう、自然と人との関わりを大切にし、その環境を守り残していくことにも貢献している。

5/11	春の残雪ハイキング	6/1	ユコピの滝 森歩きの基本
7/6	旭岳の雪渓と高山植物	9/7	三段山登山
10/27	アイヌとサケ	1/25	凍った滝の裏側をいく
3/1	樹齢900年。森の神様		

宿泊イエティ ワイルドアドベンチャー

◆夏休みキトウシなんでもやってみようキャンプ
キトウシ森林公園にて、自分たちでテントを張り、タープを設営し、キッチンをつくって「自分たちのキャンプ村」を築く2泊3日のキャンプを実施した。参加者は、自分たちが挑戦したいことに自由に取り組み、主体的に活動する時間を過ごした。

◆道東ワイルドライフキャラバン
阿寒摩周国立公園および釧路湿原国立公園を舞台に、野生生物や凍る湖、硫黄山といった自然の不思議に触れる旅を行った。タンチョウやエゾシカを観察できた。

こうした宿泊を伴う野外体験を通じて、参加者は野外で快適に過ごす環境を自ら整える力、仲間と協力する力、そして未知のことにも挑戦する姿勢を育んだ。

・キトウシこどもの森 「キトキト」

当園は企業主導型保育事業制度を活用し、10名の園児が在籍した。年間約280日、大人3～4名が園児とともにキトウシの森で生活・遊びを展開している。

主な活動内容

1. **木育活動**： 木育マイスター資格を有する保育士が指導者となり、森の素材を活かした遊びや製作を行う。
2. **年長児向け準備活動**：町中散策、買い物実習、硬筆練習、実験教室などを実施し、就学に必要な社会性・基礎学力・探究心を養成する

成果： 異年齢集団の中で助け合う経験を通じ、互いを大切な仲間と認識しながら「生きる力」と「考える力」を身につけている。また、自然という自らの意思では制御できない環境と向き合うことで、主体的に問題を発見し解決する能力が育まれている。

・馬事業

キトウシの森をフィールドに、馬との関わりを通じて「生きる力」を育む学びの場づくりに取り組んできた。フリースクールや町内イベントへの参画、保育事業との連携等を行った。

5月・9月　くらし楽しくフェスティバルにて引き馬体験の実施
7月　町内介護施設への慰問、旭川市の保育園での乗馬体験、
　　そらち自然学校（沼田町）のプログラム参画

プログラム運営も一定の形にはなったが、安定した経営の確立には至らず、牧場運営の継続は困難となり、2024年10月をもって馬の飼育を終了し、馬は元の大沼の牧場へ戻ることとなった。大きな課題の１つとして、スタッフの労働環境を整備できないことにあった。充分な人数のスタッフを確保することができず、また今後の馬事業のビジョンを示すことが困難となり、こうした状況を踏まえ、７年間にわたって続けてきた馬事業は、馬を元の牧場へ返却することで一旦終了とした。これに伴い、担当していたスタッフは今後、子どもを対象とした自然体験活動を主に担うこととなった。また、2022年度に立ち上げた一般社団法人キトウシ牧場の方針については引き続き検討中である。

③交流推進事業

・自然学校ツアーなど

・自然学校主催プログラム

●北海道の自然を巡るツアー（日帰り）
　9プログラムを実施し、71名が参加。

●各種オーダーツアー
　キトウシ、旭岳、雨竜沼湿原、知床、釧路湿原など

●ワイルドライフ　ウオッチングツアー
14プログラムを実施し、30名が参加（内宿泊を伴うもの1回）
※野生動物に配慮し少人数で実施

●旭岳３回セットツアー
紅葉ウオッチング　１回　24名（姿見・裾合平・旭岳源水）
スノーシュー講座　１回　23名（わさび沼・姿見ダウンヒル・姿見）

・受託プログラム

●道新文化センター　高山植物ウオッチング
※道新文化センターは今年度で終了

●東川町立東川日本語学校　※人材育成事業として実施
短期留学生向けプログラム　14回のプログラム　96名が参加

●東川町
東川高校　探求研修（7月）
東川小学校　山の教室（7月）
幼児センタープレスクール　6回（5月、9月、2月）
子育て支援センター　2回（5月、9月）　※子供体験活動として実施

●大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会
８月　ジオツアー「えいちゃん先生のジオで発見！大雪山」
９月　ジオキャン@パレットヒルズ
２月　ジオフェスティバル「鹿角クラフト」

●大雪カムイミンタラDMO
旭岳姿見散策
旭岳噴気孔スノーシュー

●旅行会社
・宝島旅行社旅行　インバウンド向け　旭岳ツアー　21回　106名参加

・日本旅行社　7月「金沢少年の翼」上富良野岳登山　51名

・クラブツーリズム　姿見の池周遊ツアー（9月、10月）　9回

・FTG Miniversity（中国）真夏の雪遊び「大雪山裾合平」　2回　22名

・上海道草文化有限公司　旭岳スノーシュー　1回　20名

・ツナガル株式会社　旭岳姿見散策　1回　12名

・フリープラス（台湾）旭岳姿見散策　1回　7名

●その他
北海岳登山（中国）　1回　19名
旭川市内保育園　旭岳遠足　2回　35名

●東川町アイヌ政策推進交付金事業

〇アイヌ文化関連講習会

①9月22日＠川村カ子トアイヌ記念館
川村カ子トアイヌ記念館川村晴道氏、川村久恵氏、荒井一洋
3者によるトーク／ **50名**が参加
②10月26日＠近文大橋上流部左岸
あさひかわサケの会寺島一男氏、川村カ子トアイヌ記念館川村久恵氏、荒井一洋の3者によるワークショップ＆トーク／**22**名が参加
③3月9日＠東川町複合交流施設　せんとぴゅあⅠ
北海道大学名誉教授　小野有五氏による講演／**104名**が参加

〇映画「カムイのうた」上映普及啓発・アイヌ文化啓発講演会

①11月23日＠旭川デザインセンター
映画上映後＋川村久恵氏によるトーク／ **53名**が参加
②1月18日＠東川町農村環境改善センター
映画上映後＋川村晴道氏によるトーク／**142名**が参加

〇地場産品連携ブランド化推進事業

表面には川村カ子トアイヌ記念館副館長の川村久恵氏デザインのアイヌ文様、裏面には川村カ子トアイヌ記念館のロゴと東川町のロゴをレーザー彫刻したカッティングボードキットの試作品を製作した。道産材を使用し、町内家具メーカーが製作。

【成果】
講演会・上映会などの参加者からは、「私たちが現在享受している北海道の自然はアイヌのみなさんから受け継いだものであるという視点が印象に残り、自分たちの責任を強く意識することができた」「アイヌの歴史について深く知りたいと思った」「正しい知識を持つこと、そして、他者の立場にたって物事を考えることができる人を育てることが、差別、いじめを無くすことに繋がると感じた」といった声が寄せられた。さまざまな層へアプローチでき、アイヌ文化に対する理解や興味を深めることができた。

④人材育成

・ボランティア・インターンの受入れ

(環境保全事業、地域に根差した交流促進事業と連動)
旭岳環境保全プログラム、子ども自然体験プログラム、森つくを中心にボランティアの受け入れを行った。
NPO法人ezorockや東川高等学校クロスカントリー部、町の多文化共生室、酪農学園大学の交換留学生（サバ大学）との関係性が継続し、道内外から多くの方が参加した。
ボランティア参加人数は延べ233名、その中でも長期滞在ボランティアは、1週間から1ヶ月の受け入れで4名が参加した。

登録制ボランティア
ホームページやＳＮＳでの告知などで地域住民への参加促進を試みた。今年度の新規登録者は17名となった。

・森づくり指導者育成

◆道立北の森づくり専門学院の技能養成コース実習で講師を担当した。10名の受講生を延べ7回受け入れ、散策路整備、高山植物園の笹刈り、丸太の玉切りなどの実技指導を行った。

◆公益社団法人北海道森と緑の会の助成事業として、市民による森づくりを支えるリーダー育成講座を実施した。高校生から社会人まで幅広い層が参加し、延べ参加者は123名であった。講座では散策路整備などの実技に加え、森の植生に関する基礎知識およびボランティアマネジメントを教授した。

・持続可能な観光に関する講師派遣

◆ＧＳＴＣをはじめとする「持続可能な観光」や「アドベンチャートラベル」に講師派遣を行った。小樽JC、日光市、札幌市、稚内市、JICA北海道等。